

# しまねの社会教育 だより vol. 8



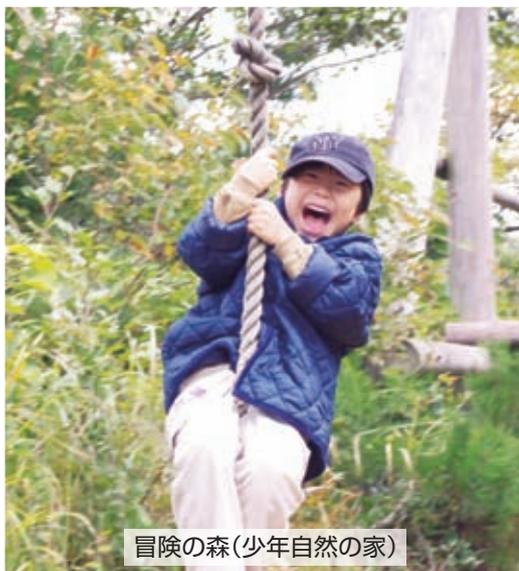
海での活動(サン・レイク)



サバニ体験(サン・レイク)



湖北中グループジュニアリーダー研修会(サン・レイク)



冒険の森(少年自然の家)



冒険の森(少年自然の家)



城北あそび塾(サン・レイク)



江津東放課後児童クラブでの野外炊飯活動(少年自然の家)



**巻頭言** これからの地域の発展は「社会教育」から始まります

**特集** 青少年の体験活動を支援する

2011.  
8月号

photo 青少年教育施設での活動の様子(上) 東部・西部社会教育研修センターの講座の様子(下)



コミュニケーション術入門(東部)



しまねの社会教育入門(東部)



プログラム立案実践講座(西部)



プレゼンテーション術入門(東部)



親学プログラム体験講座(西部)

# これからの地域の発展は「社会教育」から始まります

島根県教育委員会教育長 今井康雄



少子高齢化、都市化の進行、情報化の進展等社会情勢は急激に変化しています。

このような変化に伴い、人々の生活様式や価値観が多様化し、また市町村合併により、地域社会も大きく様変わりをする中、社会教育が果たす役割はますます重要になってきています。特に、次代を担う子どもたちへの充実した教育は喫緊の課題であり、就学前における教育や、学校と家庭そして地域住民が連携・協力した取組の充実がもとめられています。

島根県では、このような認識のもとに、社会教育行政が中心となって、学校と地域社会との距離を縮め、地域の大人が子どもの教育に積極的に関わり、社会総がかりで子どもの育ちを支える気運の醸成と仕組みづくりを進めています。

「ふるさと教育推進事業」は、地域の大人たちが、直接授業に関わり、子どもたちの学びを支えるものです。県内すべての市町村・公立小中学校で一斉に実施しているところに特色があり、全国に先駆けて取り組んだものです。7年目となる今年は、さらなる質と量の充実を図るため、全ての教育活動において取り組むという視点で推進していただくようお願いしています。

「放課後子どもプラン事業」は、地域全体で子どもの育ちを支えようとする取組です。放課後や休日に年齢の異なる子どもたちが群れて遊んだり、体験・交流する場を設けたりしています。異年齢集団での子ども同士や、世話をする地域の大人とのふれあいを通じてコミュニケーションの力を伸ばすよい機会にもなっています。島根県は、全国の中でも実施状況が高い割合となっています。

「学校支援地域本部事業」は、今年度から、市町村の要望に応え、国、県、市町村が3分の1ずつ負担する補助事業として実施します。「ふるさと教育」の全国版ともいえる事業で、地

域ボランティアと学校とをつなぐ地域コーディネーターの活躍により、学校・家庭・地域の連携協力がより一層進むことが期待されています。

学校・家庭・地域が連携し、地域の教育力を高めるためには、その基盤ともいえる地域力を高める必要があります。公民館等の活動に光を当てながら「地域力」を高めることの重要性について世論喚起を進める『実証!「地域力」醸成プログラム』は、全国の社会教育関係者から高い評価を受けています。

以上の主要施策をはじめ、島根県教育委員会では、県民の満足度を高めるべく様々な取組を通じて「社会の要請」に応えるよう努めていきます。県立東部・西部社会教育研修センターでは、市町村や公民館職員など地域住民の学習活動を支える実践者を支援するため、養成やスキルアップのための講座や研修を企画・実施します。県立青少年の家や県立少年自然の家では、利用者のニーズに応じた体験活動の充実に加え、教育的意図を持ったプログラム提供や主催事業を展開します。県立図書館は司書研修や県内の図書館への支援により子ども読書活動を推進します。

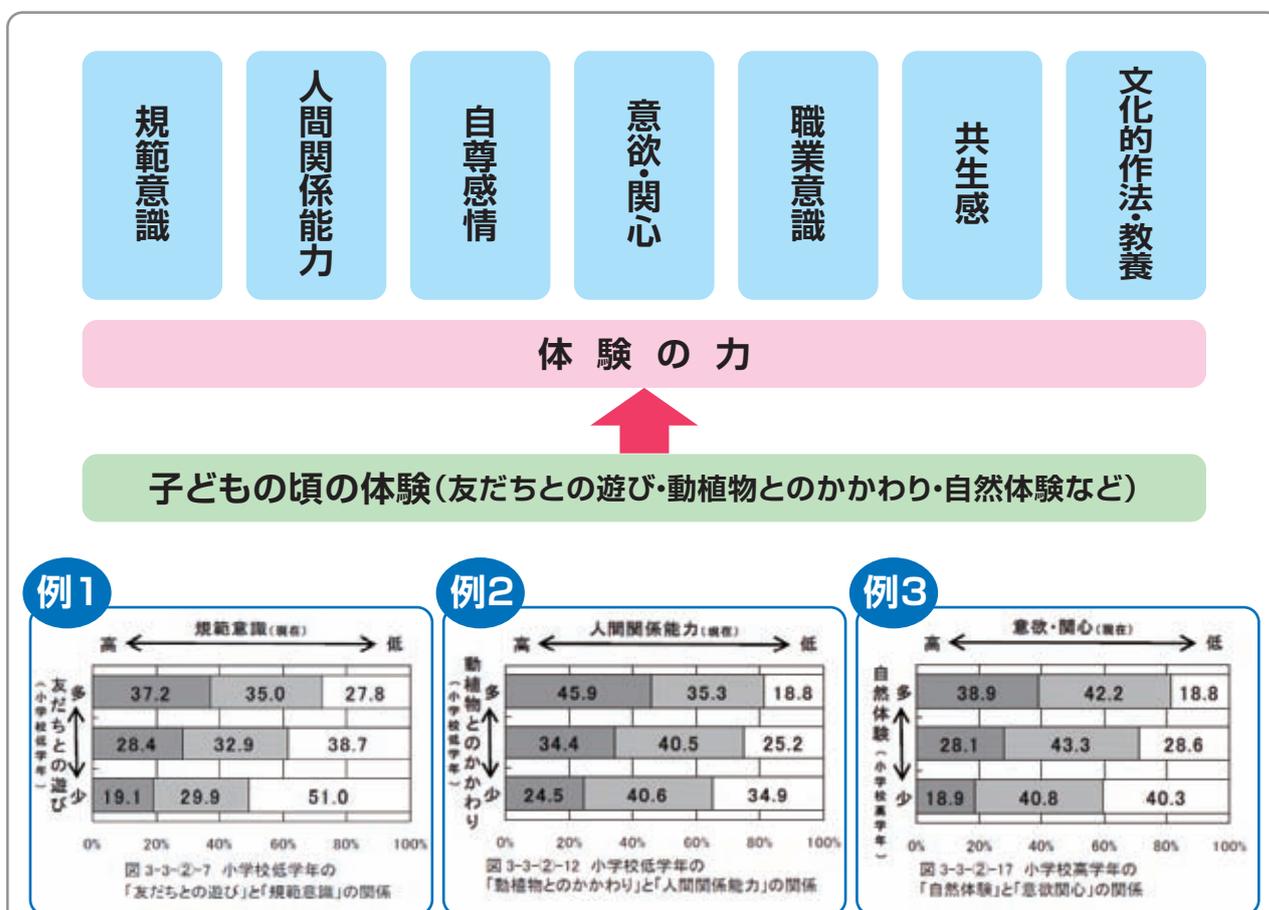
さて、人はひとりでは生きられる存在ではありません。連携や協力、「自助・共助・公助」の必要性やあり方などは、普段はあまり関心をもたれないことかもしれません。大切なものを大切に気づいたり、見えない問題や課題に気づき、話し合いや議論を始めるためには、やはり私たちは常に学習する存在でなければなりません。社会教育行政は、そうした社会における教育を支える使命をもっており、これからの地域の発展は「社会教育」から始まると思っています。そのための仕掛け役が社会教育主事です。島根県教育委員会が派遣・配置する50数名の社会教育主事の活躍にぜひ注目をしていただきたいと思います。

# 青少年の体験活動を支援する

子どもたちの日常の中で「体験」が少なくなってきたことが懸念されています。このような状況の中、今回は子どもたちの体験活動の場を支える青少年教育施設の役割に注目します。島根県には、国立、県立で三つの青少年教育施設があります。これらの施設は、青少年の体験活動を促進し、青少年の健全な心身の育成を図っています。それぞれの地域によって体験の場をつくることももちろん大切なことですが、施設を活用して、子どもたちの体験活動の幅を広げることも、青少年の健全育成の重要な視点の一つです。

## 体験活動と体験の力

子どもの頃の体験活動に関する成人調査の結果から子どもの頃の体験が豊富なほど、下の図のような力を得ていることが分かります。



独立行政法人国立青少年教育振興機構 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究(H20.10.14)」報告書より  
[http://www.niye.go.jp/houkoku\\_srch/chosa\\_cts.php?insid=117](http://www.niye.go.jp/houkoku_srch/chosa_cts.php?insid=117)

子どもの頃の「自然体験」や「友だちとの遊び」、「地域活動」等の体験が豊富な大人ほど、「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や、「電車やバスに乗ったときお年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった「規範意識」、「友だちに相談されることがよくある」といった「人間関係能力」が高いことが、成人調査によって明らかになりました。

子どもたちの体験活動の支援としては、放課後子どもプランや子ども会、公民館活動などで行われていますが、活動のねらいに沿って、子どもの安全を確保しながら、質の良い体験を提供していくことが大切です。その際、青少年教育施設を利用することも、質の良い体験を確保する一つの手段です。

# 島根県の青少年教育施設の役割と特長

## 体験活動を支える青少年教育施設の主な役割

### 主催事業

青少年の健全育成に資する事業等を実施します。

親子対象の事業

青少年指導者研修

青少年対象の事業

新規プログラムの開発

青少年活動支援者の  
(ボランティア)養成

### 研修支援事業

利用者の自主的な研修を充実させるため、研修目的に沿ったプログラムを提供します。



## 県立青少年教育施設の特長

### 島根県立青少年の家

青少年の家は通称サン・レイクと呼ばれ、国道431号線を一畑薬師入り口で曲がった宍道湖北西岸に位置する小高い丘の上にあります。東に大山、西に三瓶山を望み、眼下に宍道湖の広がる景色のよいところです。この恵まれた自然環境の中で、幼児から青少年を中心に成人・高齢者の方に至るまで、多くの年齢層の方々が体験活動や学習のために当施設を活用しています。研修生は、各団体の研修目的に加え、サン・レイクでの「創造」「自主」「交流」を大切にして研修や集団生活に取り組み、年間延べ5万7千人の方が利用しています。



サバニ体験



創作活動(ガラス工芸)

### 島根県立少年自然の家

少年自然の家は、島根県江津市の別名浅利富士の中腹、標高126mの美しい森林に囲まれた地にあります。眼下には日本海を望み、すぐそばには、中国随一を誇る江の川が流れています。四季折々の自然に囲まれ、自然観察や探察に適し、野外活動に好適な地となっています。当施設には全長2キロ、21のアスレチックのある冒険の森をはじめ、野外炊飯活動など様々な活動プログラムがあります。活動を通して幼児から大人まで、「規律」「協同」「友愛」「奉仕」の尊さを体験的に学ぶことができ、年間延べ2万5千人の方が利用しています。



冒険の森  
アスレチック



野外炊飯

# 子どもたちの体験活動の充実を図るために

## 青少年教育施設の活用の流れ

活動のねらいに沿ったプログラム相談を受けています



子どもたちの体験活動を企画する際には、**ねらい**が大切です。しっかりとしたねらいのもと、質の良い体験プログラムとなるよう心がけましょう。



## 青少年教育施設の活用事例

### 湖北中グループジュニアリーダー研修会 (大野・秋鹿・古江青少年健全育成連絡協議会)

毎年12月にサン・レイクを会場にして、湖北中ジュニア研修会が行われています。リーダーとしての資質向上を目的に、地域の人と一緒にグループワークをしたり、人間関係づくりのゲームをしたりしています。



人間関係づくりのアクティビティ

### 江津東放課後児童クラブ

年3回、休みの日に、近隣の児童クラブと合同で県立少年自然の家を利用しています。そのうち1回は、江津高校ハンドボール部と合同で野外炊飯を行い、他地区、異年齢交流をすすめています。



江津高校生徒と一緒に野外炊飯

### 城北あそび塾(松江市城北公民館・城北子ども会共催)

年7回の教室のうち、3回を青少年教育施設で実施しています。サン・レイクでは、遊び体験を通して人間関係を育むことをねらいとし、グランドゴルフ、ニュースポーツ、ネイチャーゲーム、ウォークラリーなどの活動をしています。



サン・レイク周辺でのウォークラリー

## 幼児の体験活動にも力を入れています

サン・レイク、少年自然の家どちらも幼児からの体験活動に力を入れています。

サン・レイクでは、幼児のための宿泊プログラムを用意しています。幼稚園、保育所あるいは子育てグループでのお泊まり体験ができます。敷地内でできるアクティビティをはじめ、年齢に応じた創作活動も魅力的です。

少年自然の家では、敷地内に幼児も楽しめる「どんぐりの森」を開設。子どもたちが安全に自然にふれ合うことのできる広場です。自然観察活動や遊びなどを通して幼児期の質の高い体験を提供します。また、木の実を使った楽しい創作活動もあります。



少年自然の家 どんぐりの森

## 体験活動の指導者養成のための支援も行っています

### 島根県立青少年の家(サン・レイク)

地域での体験活動を促進するため、要望に応じて、遊びや自然体験における指導ポイントなどを盛り込んだプログラムを実施することもできます。

### 島根県立少年自然の家

自然体験指導者研修(全4回シリーズ)を、幼稚園・保育所・学校の先生や公民館職員、放課後児童クラブ・子ども教室、NPO団体の指導者等を対象に行っています。「自然大好き子にするための秘訣教えます」のキャッチフレーズで、自然の家のフィールドを使って自然観察や自然遊びの紹介、ネイチャーゲームなどすぐに使えるアイデアを提供しています。

島根の青少年教育施設では、“子どもたち”と“指導者”の双方を対象とした体験活動の推進を図っています

# 地域づくりに欠かせない

# 公民館職員に求められるチカラとは

地域の活性化をすすめていく上で欠かせないのが、公民館・交流センター・コミュニティセンター（以下、公民館という）職員のチカラです。公民館は地域課題に積極的に目を向け、その解決のために様々なアプローチを図ることが求められています。そのためには、公民館職員のチカラを向上していく必要があります。公民館職員にとって必要なチカラについて考えてみました。



## 例1

地域の関係希薄化に歯止めをかけるため、世代間の垣根を越えた事業を実施し、地域のつながりを強くしていきたい。

### STEP1

#### 社会教育の考え方・役割

#### 情報収集能力

#### 参加型学習の手法



地域にアンテナを張ることにより、情報の収集をし、地域課題の共有化を図り、課題解決のための方法（住民自治を目指したきっかけ作り）を考えることが必要です。

#### 幅広い視野と探求心

#### コミュニケーション能力

#### コーディネート能力 (結ぶ力)

### STEP2

地域課題を解決していくためには時間と手順が必要です。地域住民とのコミュニケーションや各団体を結ぶコーディネート力は必要不可欠です。また情報を収集し、幅広い視野と探求心が解決のための大きな力となります。

### STEP3

#### 企画立案能力

#### 運営力・実行力

#### コーディネート能力 (調整力)

プログラムを企画する際には、イキイキとした地域や人の姿をイメージする必要があります。また、参加者の心理的満足感を充足するために、プログラムの内容を魅力的なものにし、参加者の不安要素をなくしていく必要があります。



#### 参加者の心理的不安要素

不安感	接し方が分からない どうすればよいか分からない
疎外感	自分には役割がない 嫌がられている
嫌悪感	こんなことはしたくない 挨拶やマナーができていない
無力感	自信が持てなくなった 自分がいなくてもできそう
空虚感	正当に評価してもらっていない これをやっても何になるのか

#### 変容



#### 参加者の心理的満足感

期待感	自分にもできそう これからは役に立ちたい
有用感	相手が喜んでくれた 他者から必要とされた
所属感	仲間と活動できて楽しい 自分を受け入れてくれた
達成感	自信がついた これなら自分でもできそう
価値創造感	意味のある活動ができた 今後も続けていきたい



### STEP4

#### 情報発信能力

取組を継続していくためにも、様子を地域に発信していく必要があります。





## 例2

学校からの要望で、地域の力を借りて学校の教育活動を活性化させたいので、公民館のサークルや高齢者から支援してもらいたい。また、学校を核にして地域を活性化させたい。

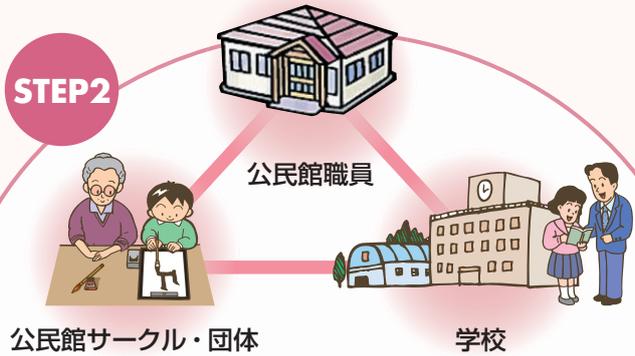
### STEP1 社会教育の考え方・役割

学校も地域の方々もいきいきと活動する姿が望ましいです。そのためには、**社会教育の考え方を理解しておく必要があります。**

**コミュニケーション能力**   **コーディネート能力 (結ぶ力)**

この場合、公民館のサークルや団体の力を借りる必要があります。そのためには、**様々な人との関係の構築や人と人、人と組織、組織と組織を結ぶ力**が必要となります。

### STEP2



**コーディネート能力 (調整力)**

取組の大きなねらいは、子どもの成長です。現場の先生の方と照らし合わせた活動となるよう配慮が必要です。**活動が軌道にのるまでは大変だと思います。さまざまな思いがけないトラブルがあるかもしれません。継続した活動となるためには、参加者の指導・フォロー、学校とのパイプ役としての力**が必要です。

### STEP3



**情報発信能力**

取組を継続していくためにも、様子を地域に発信していく必要があります。

県立東部・西部社会教育研修センターは公民館職員の皆様の学びをサポートします

社会教育研修センター講座と身につく力との関係性

公民館をはじめとする社会教育関係者の方々にぜひ研修に参加していただき、研修の成果を生かして地域の核となり、島根の「地域力」を高めていただきたいと思います。



	基礎研修					専門研修				課題別研修			社会教育主事講習「B」
	しまねの社会教育入門	社会教育施設入門	参加型学習入門	コミュニケーション入門術	プレゼンテーション入門術	コミュニケーション実践講座	コーディネート術実践講座	参加型学習実践講座	プログラム立案実践講座	親学ファシリテーター養成講座	親学ファシリテーターフォローアップ研修	親学プログラム体験講座	
社会教育の知識・技能	◎	◎	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎
コミュニケーション能力	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎
コーディネート能力						○	◎						◎
情報収集能力	○												◎
企画立案能力		○					○	○	◎	○	○	○	◎
運営力・実行力			◎					◎		◎	◎	◎	◎
情報発信能力				○	◎								◎

※◎大いに関係性がある   ○関係性がある

## 島根県の事例から

# 「新しい公共」を考える

現代の急激な変化は、地域のあり方を変化させてきています。地域住民も行政に頼るだけでは、地域社会を維持できません。また、個人主義がすすみ、これまでの地域のあり方が変わりつつあります。こうした中、最近では、社会を形成する自立した個人の育成や、学習の成果を活用した地域の活性化を行っていくことを「新しい公共」として捉え、全国的に関心が高まってきています。「新しい公共」とはどのような取組なのか、島根県の事例とともに考えてみました。

### 「新しい公共」とは…

「新しい公共」は、従来は官が独占してきた領域を「公（おおやけ）」に開いたり、官だけでは実施できなかった領域を官民協働で担ったりするなど、市民、NPO、企業等が公的な財やサービスの提供に関わっていくという考え方です。

新しい公共支援事業についてのQ&A 「内閣府」  
<http://www5.cao.go.jp/npc/unei/jigyuu/qanda.pdf>

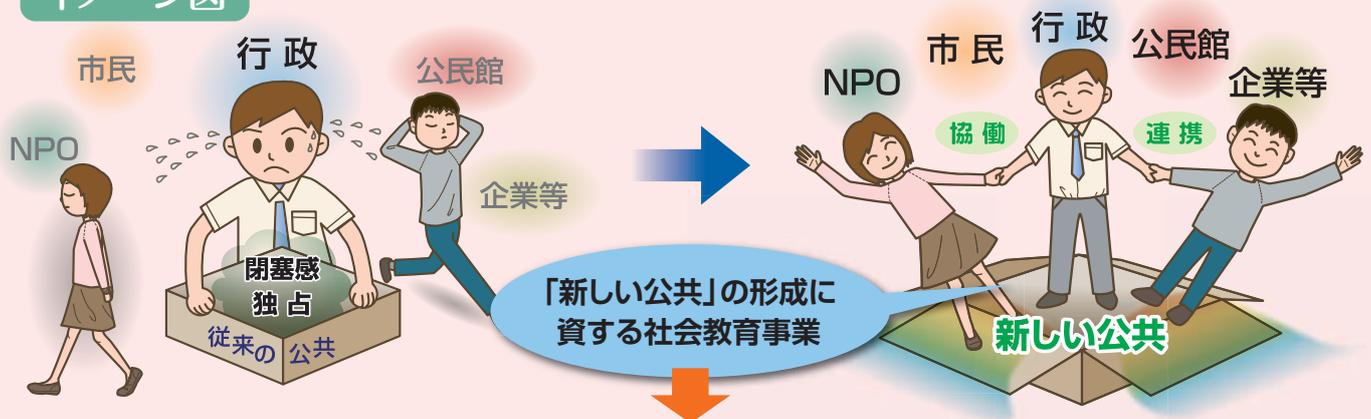


島根でもおなじみの熊谷先生は「新しい公共」について次のように述べておられます。

新しい「公共」においては、多様な主体によって公共サービスを担うということだけでなく、**新しい「公共」を創り出していくことに重点が置かれるべきであろう**。そのためには、生涯学習・社会教育の観点から、新しい「公共」の形成に資する取り組みが重要になってくる。

岡山大学大学院教育学研究科 准教授 熊谷 慎之輔氏  
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「生涯学習概論ハンドブック」より

### イメージ図



### 自立した個の確立・自立したコミュニティの形成・地域の活性化

「新しい公共」の視点がより広がることにより、公民館や自立した個人、NPO、企業等が行政等と連携・協働し、地域が互いに支え合うことが期待されています。このため地域社会を担う自立した個人の育成と地域の活性化などの問題の解決を図ることは、社会教育に求められている大きな課題と言えるでしょう。

### 社会教育から見た「新しい公共」のポイント

- 自治体・行政等と「市民」の協働関係の仕組みを作っていきましょう
- ネットワーク形成に力を入れていきましょう
- 常に公共性を意識しましょう
- 自己責任と積極性のある地域づくりを目標として、社会参加活動につなげていきましょう
- 新たな事業実施の方法を探り、次の活動につながるような評価をしていきましょう

# 「新しい公共」の形成に資する取組

## A 地域の課題等を解決していくタイプ 松江市出雲郷公民館(旧東出雲町)

### 公民館主催の「シンポジウム」で地域課題を共有

出雲郷公民館では毎年2月に「ざいごあだかえシンポジウム」を開催し、子どもからお年寄りまでが参加しています。平成21年度は「町内に芝生の公園を」とのテーマでディスカッションを行いました。そして年度末の公民館運営委員会ではこのディスカッションを参考に次年度の事業が計画され、住民とともにどのように芝生化をすすめていくかが話し合われました。とかく公園の芝生化などは、行政が中心となってすすめていくことが一般的ですが、出雲郷公民館が行政と住民を結びつけ、行政は財政的支援、そして芝生の植え付けや管理は地域住民という新たな取組が生まれました。公民館が主体となって、地域課題を行政と地域住民を巻き込んで解決していくタイプの取組といえます。



地域住民による芝生張り



「ざいごあだかえシンポジウム」の様子



シンポジウムには小学生も参加

熊谷先生によると、「新しい公共」の形成に資する取組は二つのタイプに大別されます。タイプ別に見ていきましょう。



島根ですめられている公民館の実践は、まさに「新しい公共」の視点がたくさん盛り込まれています。どのような取組が行われているかぜひ参考にしてください。



## B 学習成果を地域にいかすタイプ

出雲市荒木コミュニティセンター

### 学習成果を積極的に地域に還元

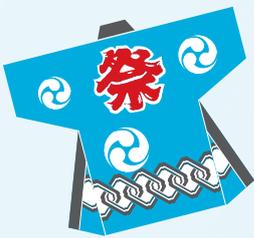
荒木コミュニティセンターでは、「地域づくり・人づくりのための生涯学習の基礎課題表」に基づき、「個人の要望」と「社会の要請」、そして「現代的な課題」を加味しながら、学習講座を開講しています。それを受けてセンターの専門部がそれぞれ講座を自主運営し、学習をすすめています。地域課題をとらえた主催講座を開設しているところが特徴的な点です。学習者は、その成果を他の学習サークル等とともに、地域の課題を解決すべく、学習成果を学校や地域に積極的に還元しています。

	A. 若いのある家庭づくりのための学習	B. 豊かな人間関係を築くための学習	C. 健康と安全な生活を考えるための学習
必修的課題	給付教育を考える講座 (母の活のくら(仮)) 小中学生保護者対象講座	すめあい講座を考える講座	健康な生活を考える講座 (元気を養う講座)
要求的課題	家具の活用を考える講座 家具の活用を考える講座	伝統芸能を継ぐ講座 ・お祭りや行事の体験 (ふるさと探訪講座) (合唱を愛する講座)	子どもの食育を考える講座 (食育を考える講座) ・防災のための学習講座 (防災グッズ作り講座)
発展的課題	しごとと暮らし講座	語外国の生活や文化を学習する講座	生きがい発見講座

「基礎課題表」をもとに設定された学習講座一覧



子どもの食育と地域の環境整備の様子



# わがまちの 社会教育の実践紹介



邑南町

## 地域を担う人材は地域で育てる ～一人の子どもを育てるのに、一つの村が必要である～

邑南町教育委員会 生涯学習課係長 大橋 覚

邑南町教育委員会では「日本一の公民館、社会教育を目指そう」を合言葉に今年度の事業をスタートさせました。

中教審答申（H20.2）で示された「個人の要望」と「社会の要請」のバランスのとれた社会の必要性が問われる中で、邑南町では、青少年教育において、特に、「社会の要請」を町の願いとして位置付け、『子どもたちは将来



地域の食材を使っの夕食づくり。包丁の使い方など地域の方々に丁寧に教えていただきました。とても美味しかったです。

のよき隣人」、その隣人をふるさとという学校（＝地域・家庭・学校）で育てていこうという思いで各種事業を展開しています。

このような背景から、ふるさと学校が開校しました。

国登録有形文化財「稲積家住宅」を活用しての通学合宿を通して、参加児童自らが「ふるまい」を意識した「衣食住」を体験しました。

普段の何気ない生活の中において、地域との共働作業により、

多様な価値観を感じながら、自らがそれを消化していく、まさに、「生きる力」を養う一助になったのではないのでしょうか。

ふるさとという学校で関係機関の有機的な連携のもと、体験活動を中心としたダイナミックな教育が展開できました。将来のよき隣人、本当に数年後が楽しみになります。



テレビのない生活でした。昔の生活空間、いろりを囲んでの読み語りを実施しました。とても集中して聞き入っていました。まさに、異空間を感じるひと時でした。

隠岐の島町

## 高齢者だからこそできる地域づくりは、 自分自身が光（高）齢者になることから!!

隠岐の島町立都万公民館 館長 福本 和子

近年、テレビを見て家で時間を過ごすお年寄りが多い中、都万地区の高齢者の方々に、集うことの楽しさ、コミュニティの大切さを知っていただくために、平成22年度より都万高齢者学級「笑福館」を開設しました。



平成22年度「笑福館」開講式 記念撮影

プログラムを計画し、この活動を通して、楽しい、やりがいがある、頼りにされている、もっとたくさんの事を伝え

高齢者の持つ知識や特技を後世に残す機会や子供たちとの交流の機会など、いつも笑顔がこぼれる

たい、もっと多くの事をやってみたい、と思うことで生きがいを感じ、高齢者だからこそできる地域づくりに取り組むことによって、都万全体に地域力が波及することをめざしています。

いつも光（高）齢者であってほしいとの願いで実施している「笑福館」事業、平成22年度は、35名という多くの方が参加し、家に引きこもりがちな高齢者にとって、楽しみのひとつとして認められるようになりました。

今年度も、受講生自ら継続を望む声が多くあり、45名の会員で都万地区の地域力醸成の一步がスタートしたとこそです。



子どもたちと昔なつかしい、凧作り

# 県内派遣社会教育主事 奮闘中!

## 子どもを育む地域の空気のもと

津和野町教育委員会 派遣社会教育主事 田中 茂秋



「わたしが出られるときには、いつでも出ますから  
言ってください。」

「津和野小学校PTA総会の時のワクワク広場の宣伝  
には、私も行ってみましょう。」

「今年の木曜日は、子ども達の思いを大切にした活  
動にしてみましょう。」

津和野小学校の放課後子ども教室「つわぶきワ  
ク広場」の第1回目のスタッフ会で聞かれた言葉  
です。この教室も7年目を迎えます。本年度はス  
タッフのメンバーが交代したこともあり、スタッフに  
とっては少し不安なスタートとなりました。しかし、  
「ピンチはチャンス」。だからこそ、前向きな新しい  
アイデアが出てきています。新しいことが始まるの  
は、誰にとっても嬉しいことで、会議中の表情も生  
き生きしています。アイデアが地域の子どものた  
めになるのだからなおさらでしょう。そこで、先のよ  
うな会話からも伺えるように、本年度はより前向き  
に活動が開始されました。地域の方々が毎月1回地  
道にこのような会議をしていることは、地域にはあ

まり知られていないでしょう。しかも7年間続いてい  
ます。そこには目にはみえない社会教育への情熱、  
教室の子どもに対する愛情の深さが見え隠れしてい  
るのです。参加させていただく私もたくさんのエネ  
ルギーをいただいております。

津和野町では、この会以外にも社会教育の会議や  
協議会はたくさんあります。社会教育委員の会、公  
民館関係、社会体育関係、社会人権・同和教育関  
係、学びの協働関係、通学合宿実行委員会…。どれ  
も前向きな意見が出てきます。このような会で一人  
一人が発言したこと、聞いたこと、考えたこと、決  
めたことの一つ一つが、津和野町の社会教育の空気  
を作るもとであると考えています。だから、より幅  
広く地域の方々に参加していただき、その時々によ  
い話しの場を設定していくことが社会教育には必要  
です。これからも子どもに関する会議を行い、津和  
野町の方々と一緒になって、津和野の未来を担う子  
どもたちを地域で育てるには何ができるかを考え  
ていきます。



活動が始まるまでに宿題を  
する子がいます。  
分からないところは、スタッ  
フに教えてもらったり、子ど  
も同士で教えあったりします。

普段はふれることが少ない  
紙風船。  
教室の後には、色々な遊び  
道具も用意してあります。



1年生に上級生が黒板を使っ  
て文字を教えています。  
空いた時間に自然なふれあ  
い活動が生まれます。

# 8月～12月の主催講座のお知らせ

## 東部社会教育研修センター 出雲

- 8月 26日(金) 課題別研修 親学ファシリテーター養成講座 (第2回)  
27日(土)
- 9月 13日(火) 専門研修 コーディネート術実践講座  
27日(火) 課題別研修 親学ファシリテーター養成講座 (第3回)  
28日(水)
- 10月 6日(木) 基礎研修 しまねの社会教育入門  
7日(金) 参加型学習入門  
プレゼンテーション術入門  
30日(日) 課題別研修 親学ファシリテーター・  
フォローアップ研修【新規】
- 11月 8日(火) 9日(水) 専門研修 プログラム立案実践講座  
29日(火) 30日(水) 専門研修 参加型学習実践講座

## 西部社会教育研修センター 浜田

- 8月 29日(月) 専門研修 プログラム立案実践講座  
30日(火) 江津市内
- 9月 14日(水) 専門研修 コーディネート術実践講座  
浜田合同庁舎  
27日(火) 基礎研修 コミュニケーション術入門  
邑南町内
- 10月 11日(火) 課題別研修 親学ファシリテーター養成講座 (第2回)  
12日(水)  
31日(月) 課題別研修 親学ファシリテーター・  
フォローアップ研修【新規】
- 12月 6日(火) 専門研修 参加型学習実践講座  
7日(水) 益田市内

※会場表記をしていない研修は、全て研修センターで実施します。

## H23年度 選定モデル公民館

6月14日、「実証!『地域力』醸成プログラム」のプレゼンテーション大会が開催され、次の11の公民館が選定されました。

公民館等の名称	実証事業のテーマ
浜田市立今市公民館	子ども活動が地域をつなぐ! ~子どもの笑顔をどまんなかにな~
浜田市立美川公民館	きてみんさい!山里を活かすイキイキ美川 ~すんで元気・訪れて元気~
出雲市荒木コミュニティセンター	あらかきブック&ネット・すぺーす「荒木・みんなの居場所づくり事業」
益田市真砂公民館	公民館・学校・地域商社との協働による地域運営の仕組みづくり
大田市立中央公民館	大田中央“絆”プログラム ~未来へつなげる地域の絆~
大田市立久利まちづくりセンター	産直市を通じた高齢者の生きがいづくりと交流による地域力の再生!
大田市立馬路まちづくりセンター	地域を生かした情報発信と受入れによる醸成事業
大田市立温泉津まちづくりセンター	大学生との交流機会を通じた地域のまちづくりの推進・定住交流人口拡大・雇用創出と伝統文化の保存継承
奥出雲町立三成中央公民館	キバメ! キコハチ群談 in みなり ~炭焼き窯のけむり便り~
津和野町左鏡公民館	人とのきずなを深め、安全・安心な地域づくり ~近隣の助け合いから地域の防災づくり~
西ノ島町立中央公民館	牧畑(まきはた)がつなぐ人と人 ~夫(ぶ)の精神に学ぶ~

### 編集スタッフから

社会教育研修センター主催の講座が県内各地で行われています。そこで強く感じることは、受講者の皆さんの学ぼうとする意欲と積極的な受講態度です。皆さんのこの真剣な姿勢から、私たちスタッフも元気とさらなるやる気をいただいています。

今年度は、平成21年度から23年度まで3ヵ年継続してきた「基礎研修5講座」「専門研修4講座」の最終年度となります。この3年間で基礎研修或いは専門研修をすべて受講された方に修了証を渡していますが、その数14名となっています。

新たに設けた講座は、「親学ファシリテーター・フォローアップ研修」です。昨年度養成された親学ファシリテーターを対象とするスキルアップ講座です。

今年度も皆様のお役に立てる社会教育研修センターでありたいと願っています。

### 東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F  
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

E-mail: tobu\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

### 西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ〜る3F  
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

E-mail: seibu\_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp